



みどりの里

宇奈月小学校だより

3月号・第11号

令和6年3月1日

目指す子供像 うんとかみがえる子 なかよくする子 つよいからだの子 きれいなところの子

黒部市立宇奈月小学校 〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山205番地 | URL <http://www.tym.e.ed.jp/>

TEL(0765)65-2288 FAX(0765)65-2800 E-mail unazuki-es@tym.ed.jp

体験することの大切さ

～花とみどりの少年団活動・なめこの植菌より～

校長 齊木 裕

5年生は、「花とみどりの少年団」に入り、自然を愛し、守り育てる活動を1年間通して行ってきました。具体的には、「森林についての学習会」「田植え体験」「花壇の整備」「イワナの放流体験」「ピオトープの整備」「蛍の育成」「リーダー研修会」「稲刈り体験」等でした。

2月13日（火）には、最後の活動「森林の働き学習会」と「なめこの植菌」を行いました。ゲストティーチャーとして富山県フォレストリーダーの方々、青少年育成市民会議下立支部の方々併せて13名が来校され、指導をしてもらいました。

最初は、多目的ホールでフォレストリーダーの古幡杉夫さんより、「森林のはたらき」と「なめこの植菌」の仕方についてお話をいただきました。

その後、6グループに分かれてなめこの植菌を行いました。原木約100本に電動ドリルに穴を開け、穴に植菌をしていきました。電動ドリルで穴を開けるのは初めての子供が多く、恐る恐るやっていました。慣れてくると、等間隔で手際よく作業していました。私自身も青少年育成市民会議下立支部の森下さんに勧められ、実際にやらせてもらいました。大人である私でさえ、やってみると達成感や満足感を味わうことができました。ましてや子供たちは、実際に体験することで、私より達成感、満足感、面白さを味わったことでしょう。

植菌をした原木は、4月上旬に青少年育成市民会議の下立支部の作業を行った方々と一緒に下立の山に運んで、3年間寝かせることになります。5年生は来年の鉾ヶ岳登山の折、先輩の育てたなめこを味噌汁にして食べる予定となっています。

この一連の活動には、多くの地域の方々、県の方々が関わっています。4月から宇奈月小学校は、コミュニティ・スクールになります。このような貴重な体験の場を長期にわたり持続可能な活動になるように話し合っていきたいと考えています。

保護者の皆様、1年間本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。



森のはたらきの説明



なめこの植菌

感謝の気持ちがいっぱいの6年生を送る会



1年「こんなことができるようになったよ」



2年「メダル作り」



3年「宇奈月にんじゃ学校」



4年「招待状作り・体育館飾り付け」



5年「のび太の学校探検ツアー」



6年「感謝をこめて」



感謝の集い

～6年生の思い出を振り返ろう～

2月22日（金）に感謝の集いと6年生を送る会がありました。感謝の集いには、安全パトロール隊やバスの運転手さん、電車の誘導員さん、駐在さんに来ていただきました。4年生がメダルを渡し、6年生が感謝の言葉を伝えました。

6年生を送る会では、1・3・5年生が出し物、2年生がメダル作り、4年生が招待状作りと体育館の飾り付けを担当しました。どの学年のプレゼント、出し物も感謝の気持ちがつまみ、心が温かくなりました。6年生も劇

を披露して、各学年に感謝・応援メッセージを伝えていました。



授賞集会

2月19日（月）に授賞集会がありました。校内書初め大会、黒部市年賀状展、こつこつノート3冊達成者、黒部市テニール大会、黒部市民スキー大会の授賞をしました。こつこつノート3冊達成者は約70名で、一人一人に賞状を手渡しました。1年間で11冊達成している子供もいました。

宇奈月温泉開湯100周年について

2月29日（木）に4・5年生の総合的な学習の時間の一環として、宇奈月町の小柳さんが来校し、宇奈月町の歴史や黒部川水力発電、トロッコ電車等を紹介されました。子供たちに出されたクイズで、宇奈月のことを楽しみながら学びました。



《第2回学校評議員会を開催しました》



【本年度の学校評議員の皆様】

大橋 朋子さん	人権擁護委員
岡田 千春さん	浦山公民館主事
竹山 繁夫さん	内山自治振興会長
中 佳美さん	放課後児童クラブ主任指導員
百石富士雄さん	主任児童委員
森下 泰行さん	青少年育成黒部市民会議下立支部
橋爪 伸明さん	宇奈月小学校PTA会長

2月20日(火)第2回学校評議員会を開催しました。黒部市教育委員会のコミュニティ・スクール推進員齊藤誠先生からコミュニティ・スクールについて説明がありました。また、2・3学期の教育活動における子供たちの様子の紹介、今年度のアクションプランの評価、保護者アンケートの結果を見ていただきました。後半の協議では、評議員の皆様から学校運営について様々なご意見をいただきました。今後の学校運営に生かしていきます。

(学校評議員の皆様のご意見)

(コミュニティ・スクールについて)

- ・宇奈月小学校は、地域の方がたくさん授業に入っていると聞いているので、コミュニティ・スクールになることで、どんなふうになるのだろうか。
- ・内山地区には、子供たちがほとんどいないので、地域が学校に入っていく必要がある。
- ・運営協議会の委員を選ぶときには、長期的視野をもちながら選ぶ必要がある。

(アクションプラン1について)

- ・こつこつノートを学童でも熱心に行っている。賞状を渡したことで意欲が高まった。
- ・一人一人に賞状を渡すことで刺激になり、学習意欲につながればよい。
- ・学童は、1年生もタブレットに取り組めるようになってきている。スキルが上達している。デジタルもアナログもどちらも大切にしていければよい。
- ・読書に関しても学校の掲示物により意欲が高まると感じた。
- ・環境を整えることも大事。宇奈月の子って本好きだねと言われる。様々な諸団体との連携もあり、環境が整っている。

(アクションプラン2について)

- ・人権集会は、よい取組であると考え。言葉は難しく、そんなつもりでなくても誤解を招くことがある。子供のうちから取り組んでいけばよい。

(アクションプラン3について)

- ・たまたま病院にいくと、保護者が小さな子供に待ち時間にスマホを渡している。スマホが生活の中に入っている。親として情報を収集し、家の中でのルールは親が作る必要がある。
- ・研修でゲーム依存の恐ろしさ等を伝えることで、子供自身が長時間ゲームをすることの危険性に気付くと思う。
- ・子供が、オンラインゲームで外部とつながることや課金することが怖い。
- ・ドッジボールをしていて「しとめろ」という言葉を使っている。ゲームの影響があるのでは。「しとめろ」という言葉は日常ではあまり使わず、違和感がある。

(保護者アンケートについて)

- ・ハッピーウエズデーにより、水曜日に公民館に遊びに来る子供が増えている。ドッジボール等をしている。地域に帰り体を動かし遊んでいるのはよいことだと思う。
- ・学童では、着替えをしている。学童の子供が一目で分かるため、気持ちの切り替えや清潔面を考えて着替えている。

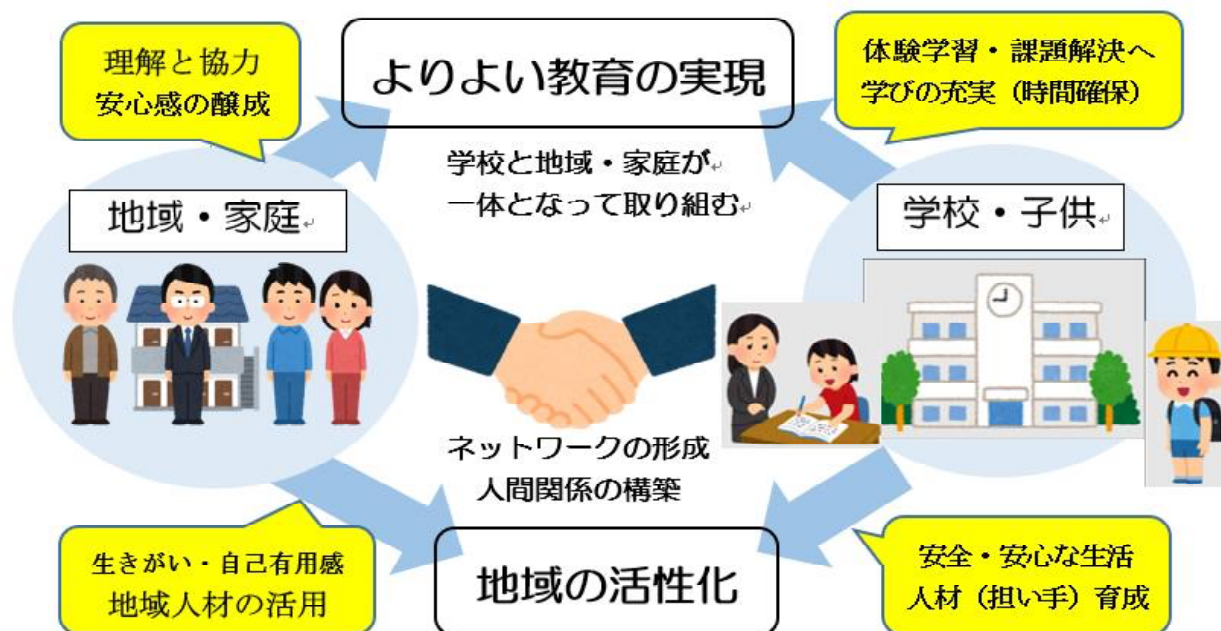
令和6年4月より黒部市立小中学校は、

コミュニティ・スクールとなります

- 1 目的 学校と地域・家庭が共通の目的をもって、連携・協働する体制を整え、よりよい教育の実現と地域の活性化を進めます。
- 2 方法 学校運営協議会を設置し、学校運営や教育活動の充実、学校課題の解決に必要な支援等について協議しながら、学校と地域・家庭が一体となって取り組みます。

※学校運営協議会…校長、自治振興会代表、PTA代表、公民館代表、有識者等で組織

- 3 理由や背景等：社会総がかりで教育する必要があります
 - ・子供を取り巻く環境が変化、学校が抱える課題が複雑化
 - ・働き方改革の必要性、地方創生の動きの高まり など
- 4 効果やメリット：これまでの取組を土台に、改善・発展を図ります



子供+家庭+地域

WIN-WIN

①組織的・継続的な体制の構築により、持続可能となります！

例) 14歳の挑戦や地域行事等 ⇔ 担い手育成や郷土愛の育成

②当事者として役割分担することで、連携・協働して活動できます！

「我が子、我が学校、我が地域」のための活動です。

例) 部活動指導者やゲストティーチャー等 ⇔ 質の高い教育、地域人材の活用

③目標・ビジョンを共有し、協力して取り組むことで、安全・安心・信頼が高まります。

例) 安全パトロール隊の活動 ⇔ 子供や地域の安全・安心と地域人材のやりがい

合言葉：**ち**（力を合わせ）、**い**（生き生きと）、**き**（希望をもって）